

外国語研究部 教科総論

寺尾 太地 山中 隆行 宮城 健太

1 外国語活動・外国語科における「学びをつなぐ」とは

外国語科・外国活動では、子供が目的や相手意識などを持ち、Message（子供の本当に伝えたいこと）に応じて、既習の語句や表現などを使い分け、言語活動を行っていく。教師は、単元構成の工夫や、振り返りの工夫を行うことで、手立てと教材をつなぎ、言語活動の充実を図る。これらを通して、子供が、英語でコミュニケーションを行いながら、互いの共通点や意外な点を発見し、他者との相互理解を深めていく姿を「学びをつなぐ姿」と捉えている。

2 外国語活動・外国語科の見方・考え方

外国語活動・外国語科の見方・考え方とは「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」である。外国語活動・外国語科は、この外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地（外国語活動）・基礎（外国語科）となる資質・能力を育成することを目指している。コミュニケーション能力は、既習事項を生かしながら新しい言葉や表現を獲得し、目的や場面、状況に合わせて言語活動を行うことで育っていく。外国語活動・外国語科は、子供が相手意識・目的意識をもって互いの考えや気持ちを伝え合いながらおこなう学習である。

3 外国語活動・外国語科における「知識・技能」, 「思考力・表現力・判断力等」

外国語活動・外国語科における「知識・技能」とは、コミュニケーションにおいて言葉や表現を正しく使ったり理解したりできることを指す。また、「思考力・判断力・表現力」とは、目的や場面・状況に合わせて自分や相手の考えや気持ちを表現したり読み取ったりすることを指す。

4 授業づくりのポイント

(1) 単元構成の工夫

単元構成シートなどを用いて、単元の目標や評価、ゴールを踏まえて単元の最後から第1時にむけて授業を作っていく。その際、子供の興味・関心を踏まえてより必然性の高まるような単元のゴールを設定する。

(2) 言語活動の充実

自分の考えや本当の気持ちを伝え合えるよう、Small talkなどの言語活動の場を充実させる。

(3) 振り返りの工夫

単元の中で自分の成長がわかるよう、Can-doと連動して振り返りを蓄積していく。

第3学年外国語活動デザインシート

授業者：山中隆行

ALT：Nakagawa Tania Hitomi

1 育みたい資質・能力

外国語活動・外国語科における「学びをつなぐ」とは、子供が目的や相手意識などを持ち、Message（子供の本当に伝えたいこと）に応じて、既習の語句や表現などを使い分け、言語活動を行なっていくことである¹。これを受けて、中学年の外国語活動において育みたい資質・能力、特に第3学年では、「出会い」、「興味・関心」、「Message」、「慣れ親しむ」、「異文化理解」を視座に以下の資質・能力に着目していく。

- ・言語活動を通して、その過程で仲間と関わることの楽しさを実感したり、言語材料に慣れ親しんだり、異文化理解などを深めたりする。
- ・目的や場面に応じて、よりよく聞いたことを理解したり、伝え合ったり、話したりする。
- ・目的や場面に応じて、よりよく理解できる/話す、伝わる工夫（繰り返し聞く、ゆっくり話す、ジェスチャーをするなど）を発見しようとしたりする。

〈本単元における育みたい資質・能力〉

- ・日本語と英語の音声の違いに気付き、身の回りの物の言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- ・何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。
- ・相手に伝わるように工夫しながら、自分の好きなものなどを紹介しようとする。

2 単元の評価規準

* 中学年では、数値による評価などは行わないが、育みたい資質・能力を明確にするために評価規準を設定した。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞く こ と	好きなもの（色や食べ物、フルーツ等）の尋ね方や言い方、Do you like~?/What do you like~? /What ~ do you like? / Yes, I do. No, I don't. / I like ~.などの表現を聞くことに慣れ親しんでいる。	仲間へのインタビューの仕方などの参考にするために、デジタル教材などで紹介される好きなものなどを聞くインタビューを聞いて意味がわかっている。	仲間へのインタビューの仕方などの参考にするために、デジタル教材などで紹介される好きなものなどを尋ねるインタビューを繰り返し聞こうとするなど、粘り強く聞いて意味をわかろうとしている。
話す こ と (やり取り)	好きなもの（色や食べ物、フルーツ等）について、Do you like~?/What do you like~? /What ~ do you like? / Yes, I do. No, I don't. / I like ~.などを用いて、尋ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。	学級の仲間のことをよりよく知って仲良くなるために、相手に伝わるような工夫（ゆっくり話したり、繰り返し話したり）をしながら、好きなものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。	学級の仲間のことをよりよく知って仲良くなるために、相手に伝わるような工夫を仲間とやり取りしながら、自分なりに発見しようとしている。

¹今年度(2022)における外国語研究部 教科伝達資料より引用

3 本時について

単元名	Unit 5 : What do you like? (Let's Try! 1)
本時	好きなもの (4/4)
本時の目標	インタビューや3ヒントクイズを通して、当該単元の言語材料等に慣れ親しんだり、好きなものなどを伝え合ったりする。
本時の評価	インタビューや3ヒントクイズを通して、言語材料に慣れ親しんだり、好きなものなどを伝え合ったりしたか。【知・技】【思・判・表】

(1) 導入

- ①はじめのあいさつをする (天気、曜日、日付など)
- ②チャンツや授業者の Small Talk を聞く *担任と ALT, 子供の間でやり取りをしながら進める

(2) 展開

- ①授業者のデモンストレーションを見る
- ②仲間にインタビューを行う (フリートーク)
- ③驚いたことや気づいたことなどを全体で共有する
- ④Who am I? クイズを行う

(3) 終末

- ①本時の振り返りを行う (授業者は振り返りを回収し授業改善へ活かす)
- ②本時で考えたことや気付いたことなどを発表する
- ③おわりのあいさつをする

4 授業者より

本単元における主な目標は、言語活動を通して、学級の仲間の新たな一面などを発見し、相互理解を深めることとした。具体的には、仲間の好きなものなどを伝え合うことである。

第1時では、単元最後の活動に向けての見通しを持って、既習表現などを子供に使わせて、好きなものなどを実際に伝え合わせた。

第2時では、チャンツやリスニングを活用して、当該単元の言語材料に慣れ親しめるようにした。しかしながら、タカ(仮名)は殆ど活動に参加せず机上で頭を伏せていた。デジタルで集計した振り返りカードからタカの感想を分析するも、否定的な回答はなかった(筆者が授業で見とった姿と子どもの振り返りが一致しない)。振り返りカードが形骸化していることを反省した。

第3時には、グループで好きなものなどをインタビューする活動を設定したが、タカは活動に参加していなかった。グループのメンバーに声かけをお願いしたり、筆者自身声かけをしたりするも、変容はなかった。

タカは他教科でも「書くのが苦手」「集中力が短い」ことを筆者は知っていたので、第4時には、学級を歩き回りながら行うインタビューを設定した。すると、タカが他のグループの仲間に、自ら“What color do you like?”と聞いたり、“I like red.”と答えたりしている姿が見られた。タカに変容が見られた瞬間であった。子供の振り返りの発表でも、「タカさんが赤が好きと聞いて驚きました」と発言した子供がいた(タカはいつも黒や青系統の洋服を着ているが、インタビューで「赤」と答えたので)。学級全体も驚いていた。相互理解が深まった瞬間だったと捉える。

5 単元計画

時	主な学習活動
1	・単元のゴール（活動）を知り，大まかな単元の見通しをもつ。 ・既習表現等（Do you like~/I like~.）などを使って，好きなものなどを伝え合う。
2	・チャンツなどを通して，好きなものなどを伝え合う語句や表現（What do you like?等）に慣れ親しむ。 ・Listening を聴くことで話されている内容を理解したり，使われる言語材料に慣れ親しんだりする。
3	好きなもの等を尋ねるインタビュー（グループ）を通して，仲間の意外なところ等を知り相互理解を深める。
4	フリートークでのインタビューや3ヒントクイズの活動を通して，当該単元の言語材料などに慣れ親しんだり，好きなものなどを伝え合ったりする。

6 『中学年における外国語活動の再考』

筆者は，今年度（2022），専科教員として3年生から5年生の外国語活動・外国語の授業を担当した。専科教員として小学校英語を指導するにあたって，各学年や学級，子どもの実態に応じた授業づくりや実践は非常に難しいと実感した（筆者の課題）。日々の実践，そして筆者自身の振り返りなど，試行錯誤の連続であった。その過程をたどる中で，気付いたことがある。以下に述べる。

(1) 高学年で行われた外国語活動との違い

現行の学習指導要領（2017）における中学年外国語活動と高学年で行われていた外国語活動（2008）の違いを踏まえて授業づくりを行うことが必須である。一番の大きな違いは，「子供の発達段階」と「身に付けさせたい力」であると推察する。前者において，筆者は今年度の実践で猛省する点である。高学年の指導と評価に着目しがちで，中学年でも中間指導などを意識して行っていた。その結果，1学期の中盤あたりから子供の興味・関心が低くなっていることに気付いた。中学年と高学年では認知面でも大きな違いがあることは明確である。この点に関しては，繰り返しになるが筆者の力量不足である。現在，小学校にて専科教員として指導にあたる先生方はどう考えるであろうか。

中学年において一番大切にしたいのは，中学年の発達段階，はじめて英語と出会うことを考えると，言語面も大切にしたいが，それ以上に Message（子供が本当に伝えたいこと）にもっと焦点を当てるべきではないかと考える。そのことが，コミュニケーションを図る「素地」の本質なのではないかと捉える。

(2) 「慣れ親しむ」ことの重要性

専科教員として実践をおこなって，小学校英語の系統性（言語面）を考えた指導も重要であると痛感している。一昔前に，「慣れ親しむ」ことが外国語活動で目標とされていた時に起きていたことだが，言語材料に<なんとなく慣れ親しんでいれば O.K という雰囲気>が漂っていた（下線筆者）>ことがあった。しかし，これは外国語（言語）の学習を考えると「活動あって学びなし」に近いのではないかと考えるように至った。現行の学習指導要領では，中学年から高学年の4年間にわたって子供は外国語を学ぶことになる（小学校）。指導者は，言語面での系統性を意識して「既習表現」を使わせ，新出の言語材料とどのように出会わせ，「慣れ親しませるか」を考えることが，高学年外国語の学習の充実につながると考える。

今一度、中学年の外国語活動の在り方を考える時期に来ていると筆者は考えている。その際、3学年での外国語（英語）との「出会い」、「興味・関心」、「Message」、「慣れ親しむ」、「異文化理解」などと向き合い、子供とともに外国語活動を楽しむことを忘れず今後の実践に励みたい。

〈参考文献〉

- 大城賢・萬谷隆一(2017). 『中学年用 はじめての小学校外国語活動 実践ガイドブック』開隆堂.
- サラ・マーサー, ゴルタン・ドルニエイ(2022). 『外国語学習者エンゲージメント 主体的学びを引き出す英語授業』アルク.
- 高橋一幸(2021). 『改訂版 授業づくりと改善の視点ー小と高をつなぐ新時代の中学校英語教 ー』教育出版.